

::: 第42回特別展 :::



皇國製茶會(静岡県立中央図書館蔵)

平成30年

10月6日(土)~11月18日(日)

【開館時間】

9時~16時30分

【休館日】

祝日を除く月曜日、
10月9日(火)、11月6日(火)



入館無料



- 大宮駅から徒歩15分
- 駐車場が狭いので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

さいたま市立博物館

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2-1-2
☎048-644-2322 FAX 048-644-2313
<http://www.city.saitama.jp/004/005/004/005>



後援：埼玉新聞社

「泰平のねむりを覚ます上喜撰^{じょうきせん}たった四杯で夜も眠れず」、開国を迫り来航した蒸気船に戸惑う江戸幕府の狼狽ぶりを皮肉った狂歌です。幕末に流行した茶の銘柄、上喜撰になぞらえていることから、庶民に煎茶をたしなむ風習が定着していたことがうかがえます。鎖国の眠りから目覚めた日本は、世界という大海へ放り出され、明治政府は、欧米列強という荒波に飲み込まれまいと、外貨獲得のため、横浜港から世界へ様々な物産を送り出します。当時、生糸が輸出の中核を担ったことは有名ですが、それに次ぐ輸出品が茶でした。

さいたま市域では、江戸時代に茶畑が存在したことは確認されていますが、特に、明治時代以降、政府によって茶の生産が奨励されるとともにその生産が盛んになりました。実際、明治14年に作成された迅速測図に目を通すと、現在のさいたま市域に多くの茶畑があったことが判ります。明治20年代には、市内各地に製茶伝習所が設けられます。市内の農家では、「ハマダシ」という横浜への茶の出荷を意味する言葉が伝わります。

この展示は、明治時代、飛躍的に巻き起こった製茶のムーブメントに着目し、さいたまにおける製茶の歴史、風土について紹介します。

∴ 第42回特別展 ∴

さいたまの茶葉 大海を渡る



秋葉神社製茶講奉納絵馬(秋葉神社蔵)



「農務順末」
(東京大学農学生命科学図書館蔵)



茶壺「海上安全」
(さいたま市教育委員会蔵)

展示構成

- 第一章…江戸時代以前の茶の文化
- 第二章…明治政府による茶の生産奨励政策
- 第三章…さいたま市域にみる製茶の発展
- 第四章…茶のある風景

特別展関連講座

1 「世界から注目される日本の茶」

日時 ■ 10月21日(日) 14時00分～15時30分
講師 ■ 大森正司氏(大妻女子大学名誉教授・農学博士・「お茶大学」校長)

2 「明治期、勤業政策の展開～茶業を中心に～」

日時 ■ 11月11日(日) 14時00分～15時30分
講師 ■ 岩下祥子氏(国土館大学文学部講師)

3 「明治初期の市内の紅茶生産の試み」

日時 ■ 11月18日(日) 14時00分～15時30分
講師 ■ 磨田顕寛(当館学芸員)

定員 ■ 各50人 費用 ■ 無料 会場 ■ 当館講座室
申込 ■ ①10月5日(金)、②10月23日(火)、③11月7日(水)
各9時00分から電話で博物館へ
いずれも先着順

学芸員展示解説

日時 ■ 10月28日(日) / 11月4日(日)
各日とも11時00分～ / 14時00分～

申込・費用 ■ 不要 会場 ■ 当館特別展示室

特別展関連イベント

1 オープニングセレモニー「チェンバロとバイオリンの奏で」

日時 ■ 10月6日(土) 14時00分～15時00分
奏者 ■ 伊東佑樹氏(東京ニューシティ管弦楽団所属バイオリニスト)
木村真理氏(ピアニスト)

申込・費用 ■ 不要 会場 ■ 当館エントランス

2 「一寸一服」茶道体験講座

(1) 茶道体験講座(表千家流)

日時 ■ 10月14日(日) 13時30分～15時00分
講師 ■ さいたま市茶道会常任理事 佐藤宗智氏

(2) 茶道体験講座(裏千家流)

日時 ■ 10月18日(木) 13時30分～15時00分
講師 ■ さいたま市茶道会常任理事 横田宗和氏

(3) 煎茶体験講座

日時 ■ 11月11日(日) 13時30分～15時00分
講師 ■ 青山茶舗店長 青山守一氏
浦和宿げやきの会代表 原田紀子氏

(4) 茶道体験講座(大日本茶道学会)

日時 ■ 11月18日(日) 10時00分～11時30分
講師 ■ 大日本茶道学会本部教授 林順仙氏

定員 ■ 各50人
申込 ■ 各講座とも、当日講座開始30分前から整理券配布(先着順)
費用 ■ 無料 会場 ■ 当館エントランス(茶室セット)